

埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

安心・安全な暮らしのために

熊谷市立大里中学校 三年 神成 有紗

中学生の私と税金は、結び付かないと思っていたが、実はとても深く結び付いていることが分かった。毎日の生活の中で、私たちは税金と関わりながら暮らしている。

私たちが安全に住むことができるのは、警察や消防のおかげである。新潟の地震は、記憶に新しい。被災地での救助活動の様子をニュースで何度も見た。命を守り、命を救う映像だった。私たちが安全に暮らしていけるのは、警察や消防士の人たちのおかげだと強く思った。

義務教育の小・中学校。私は、当たり前のように学校生活を送っている。新学期に、担任の先生から、新しい教科書が配布される。

小学生の時、先生が、

「この教科書は、無料ですが、みなさんの家の人が納めている税金で買ったものです。感謝しながら大切に使いましょう。」

と言われたことを思い出した。新学期になるたびに思い出す言葉である。あと半年の中学校生活であるが、あの言葉の通り大切に使っていきたくと思った。税金は、学校や病院、公園などの公共施設を建てたり、信号機を設置したり、新しい道路を作ったりするための費用となる。「税金は高い。」と言うが、私たちのところに、確実にもどってくるものだと思った。

少子化問題についてよく耳にする。小さい子のいる母の友人が、

「子どもの医療が、前よりも長く保障されていて、とても助かる。」

と話していたのを聞いた。子どもを安心して育てることができるのは、素晴らしい環境だと思った。さらに、二十四時間保育などの施設もできてきたそうだ。これなら安心して子どもを授け、働くことができる。こうした施設が増えていくと、少子化問題も少しずつ解決していくのではないかと思う。もちろん、少子高齢化という問題もある。将来、働く人たちより、高齢の人たちの方が高くなると言われている。私が仕事をするころは、どんな社会になるのだろう。不安もあるが、納税という大事な義務を果たし、私たちの生活が成り立っていけるようにしていかなければならないと思う。

今まで社会のために尽くしてきた人たちが突然の地震で家を無くし、仮設住宅に入っていることを知った。せめて、地震前の住宅環境に近づけるような援助が、税金からできればいいと願っている。

税金は、「とられるもの」ではなく、「納める」ことによって、私たちが日本の社会を支えているという意識をもって生活していきたい。